

「理科系の作文技術」 木下是雄 著 中央公論新社 1981年9月発行

実は理系の学生にも作文能力は必須である。在学中はレポート、卒業論文など書かなくてはならないし、就職してからも企画書、報告書、特許、技報、論文など、いろいろな作文をすることが求められる。このような作文は、読書感想文などの文学的な作文と区別して「理科系の作文」として書くことができる。

どのような理科系の作文が優れているといえるのかについては、わかりやすい家電製品の取扱説明書を思い浮かべてもらえればよいだろう。誰が読んでも誤解の余地なく同じように解釈され、正しく製品を使いこなせるようにできるのが優れた取扱説明書である。癖があったり、回りくどかったり、文学的な技法に凝った取扱説明書は、誰も読みたくないだろう。

本書は、わかりやすい理科系の作文を書くための心得や技術についてまとめたものである。具体的には、

- 必要なことはもれなく記述し、必要でないことは一つも書かない
- 「読者」に必要な「感想」は書かない
- 一つの文書には一つの主題についてのみ書く
- 情報伝達は「概観から細部へ」
- 「事実」と「意見」を明確に区別する

といったことなどである。手紙・説明書・原著論文等の書き方のほか、学会講演の要領についても記載されているので、はじめて学会で発表する学生にも役立つ。

著者は物理学者であり、本書は1981年に出版されて以来、作文技法についての名著として永く知られてきた。最近では漫画版（まんがでわかる理科系の作文技術、中央公論新社）が出ており、原著になかったストーリー仕立てにもなっている。また、重要なところは原文が抜粋して掲載されている。立場上、原著の方を薦めたいが、本書を読みこなすにはハードルが高いと思う方には、まず漫画版で概要をつかんでもらうのもよいだろう。

作文が苦手と感じている学生、これから長文レポートや卒業論文の執筆にとりかかろうという学生には是非一読してほしい一冊である。